

製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

— 可視化・定量化とその思想的背景 —

(株)ジョンケルコンサルティング 落合 以臣

A Front End Loading in Product Development

“The ideological background of visualization and quantification”

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

**Keywords:**アクションリサーチ・人間関係・変化・決定要因・発展・精密化・情報共有

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、よい年をお迎えいただけたと思います。今年は、主に製品開発のフロント・エンド・ローディングの要となります RCOM (Risk Control Method)による可視化・定量化方法について、その思想的背景を深掘していきたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

製品開発の過程を可視化・定量化するうえで、その一部を補う方法としてアクションリサーチ (Action Research)という考え方の思想に影響を受けております。アクションリサーチは、1954年心理学者 Kurt Lewin によって提唱された方法で、『社会活動で生じる諸問題について、小集団での基礎的研究を重ねてそのメカニズムを解明し、得られた知見を社会生活に還元して現状を改善することを目的とした実践的研究』と述べています。その神髄は、『よい理論ほど実際に役に立つものはない。しかしながら、理論は前もって体系的に詳述されるものではなく、むしろしばしばデータの展開につれて発展し精密化してゆくものである』と説いています。特に、上記の“データの展開につれて発展し精密化してゆくものである”この部分が、少なからず、製品開発の過程を可視化・定量化する新たな方法として開発した RCOM に、あくまでヒントとして間接的に影響を受けました。

フロント・エンド・ローディングを実際の製品開発現場に当てはめた場合、開発当初にゴールを見据えた開発内容の道筋を作ることです。そのために、道筋となるその製品の構成要素、機能を製品開発に携わる開発エンジニアが一堂に会してできるだけ詳細に分解することが必須となります。当然と言えばそれまでですが、ここが製品開発の起点となり、その行為を Kurt Lewin は“データの展開につれて発展し精密化してゆく”という表現にしております。もともと、アクションリサーチの原点は、こうした集団的な人間の行為を前提に考案されたものであり、人間関係に変化を起こさせる決定要因を発見することが研究の目的になっております。同時に、決定的要因を発見させていく過程で新たな発見が生まれると想定しているようです。

RCOM は、上述いたしましたようなアクションリサーチの思想を陰として間接的に影響を受け、RCOMを利用して製品開発の過程を可視化・定量化していくことによって、開発に携わる開発エンジニア同士の情報の共有化と開発の共有化が醸成され、スムーズな製品開発の運用ができるように仕組んでおります。

2014年は、経済の苦境を乗り越え新たな展開と発展を可能にする年のはじまりであると思えます。今一度、品質ナンバーワンのものづくりを、皆様と一緒に励行してきたいと思えます。

この JQ International Review が、愛読される方の背中を押すことができれば幸いです。